



◎道路改良學術講演會記

前號に記載の通り道路改良學術講演會は仙臺高等工業學校大講堂に於て三日間に亘り盛大に開催した、時節柄東北振興に重要な關係を有するので聴講員總數三百六十名の多數に達し孰れも職務に關係ある官公吏のことゝてノートをとり或は講演後に質疑（時間が少なかつた關係もあらう）する等眞劍味に充ちて居た。

開會の挨拶の爲めに會長代理として前技監中川理事が二十七日東京を出發したのであるが途中福島で突然事故を生じたので佐藤幹事が代つて開會の辭を朗讀した、また第一

日の午前中に渡邊鐵道技師が東北地方の地質に就て講述する豫定でパンフレット等は前日既に到着したのであるが、東京出發の間に發病され出講不能となつたので、急に鶴見仙臺高等工業學校長に土木工事執行に就て約四十分、太田仙臺高等工業學校教授に土木關係器具機械模型により約三十分餘の説明を依頼して補充した。

尚ほ道路法は新居内務省道路課長が講演の豫定であつたが折柄豫算關係で離京し得ないことゝなり武若内務事務官が代つて講演された、其他は前號豫告通りの演題について各講師より熱心に講述され、結城仙臺高工教授の如きは前夜來熱發あり藥瓶を携帯用意しての登壇には聴講員も感動を禁じ得ぬ模様であつた、見學は午前中に國道四號線及六號線コンクリート舗裝及び阿武隈橋梁（六號國道）等を視察して引返へし岩沼町竹駒神社に參拜して同神社々務所樓上に於て辨當を喫し午後は仙鹽道路（仙臺鹽釜間）及松鹽道路（鹽釜松島間）等を視察して午後六時半仙臺驛前着解散した。

本講演會開催に關し終始御盡力を垂れ盛況の裡に好成績を以て終了するを得たるは、井野宮城縣知事、福田内務省仙臺土木出張所長、鶴見仙臺高等工業學校長、土肥土木部長をはじめ三島工務部長、山口道路課長、楠谷事務官、船越監理課長、山本技師(總務部)、また庶務係として島津、園田、上原、竹田、岡、大森、六郷、今村、中村、北目の諸氏、會計係として大窪、古川、神山諸氏、會場其他設備係として石田技師以下伊藤、片岡、岡崎、長井、大塚、米谷、平、秋葉、菊地の諸氏、聽講者の宿所斡旋及受付係其他に就ては草野技師以下渡邊、郷古、木村、佐藤、松岡、高橋、井上、石川諸氏、講師役員關係事務一般に就ては近藤主事、堀技師以下石垣、和泉、高橋、齋藤、長尾の諸氏見學に關する事項並に説明には富田技師、相澤技師をはじめ三浦、松本、秋山、中島、齋藤、岡山、千葉、馬場以上の諸氏が當られ三日間を通じ、多數の聽講者感激裡に智囊を充たして歸任の途に就いた前後の事情を録して感謝する次第である。(都筑通督)

顧問床次竹二郎氏の薨去

道路改良會顧問遞信大臣從二位勳一等床次竹二郎氏は病氣中の處九月八日薨去同十二日青山齋場に於て告別式を執行せられた。本會よりは花環竝に弔詞を呈して弔意を表し且都筑幹事をして會長を代理し告別式に參列せしめた。

◎幹事會

九月廿三日正午内務省會議室に於て幹事會を開き新居道路課長以下全員集合宮城縣道路課長山口勝藏島津屬列席の上都筑幹事より仙臺市に於て開催せる道路改良學術講演會に就て報告あり次で調査部事業委員の證衡理事幹事補任其他に付き協議午後二時半散會。

◎土木地方債許可概要

| | | | |
|-------|--------|-----------|------|
| 八月十二日 | 二五,〇〇〇 | 林道開設費 | 三重縣 |
| 八月十三日 | 三三,〇〇〇 | 道路改築費 | 佐賀縣 |
| 八月廿一日 | 一八,〇〇〇 | 林道開設費 | 新潟縣 |
| " | 三〇,〇〇〇 | 道路橋梁費 | 愛媛縣 |
| " | 四,〇〇〇 | 同 | 宮崎縣 |
| " | 八,〇〇〇 | 都市計畫道路事業費 | 延岡市 |
| " | | | 鹿兒島縣 |

◎寄贈圖書

| | | | |
|-------|---------|------------------|----------|
| 八月廿二日 | 二四〇、〇〇〇 | 土木事業費 | 愛媛縣 |
| 八月廿三日 | 六、〇〇〇 | 都市計畫街路事業費 | 三重縣 津市 |
| 八月廿六日 | 一〇五、七〇〇 | 橋梁架設費負擔金 | 群馬縣 |
| 八月廿六日 | 五九、〇〇〇 | 災害復舊土木費 | 北海道廳 |
| 八月三十日 | 三、〇〇〇 | 橋梁架設費負擔金 | 長野縣 七貴村 |
| 八月三十日 | 二九七、〇〇〇 | 橋梁架設費 | 北海道 |
| 〃 | 五六五、〇〇〇 | 佐沈山隨道並山口、防府國道改修費 | 山口縣 |
| 〃 | 七、七〇〇 | 災害土木應急費 | 島根縣 |
| 〃 | 七、〇〇〇 | 橋梁架設費 | 兵庫縣 黒田庄村 |
| 九月三日 | 四〇、五〇〇 | 道路改修費 | 長崎縣 |

一昭和八年度直轄工事年報 内務省土木局

既刊年報と同じく第一治水事業、第二港灣改良事業、第三復舊、補修及應急事業、第四國道改良事業、第五本年度施行工事の五項目に分ち施工情態を詳記したものである。總括して昭和八年度に於ける直轄工事を擧ぐれば河川改修四十三、河川附屬物及水路維持七砂防九、港灣改良二十六補修及應急二、國道改良九十四合計百八十一工事にして何れも本省直轄の下に東京、横濱、仙臺、新潟、名古屋、大阪、神戸、下關の八土木出張所に於て施工の局に當れり、此等の總工費豫算額は河川改修工事費二億九千八百三十八萬七千七百七十三圓河川附屬物及水路維持工事費一千三百八十

一萬四百六十八圓砂防工事費九百七十六萬九千三百六十九圓港灣改良工事費一億二千五百七十七萬四千三百二十七圓復舊及應急工事費五百三十二萬六千七百六十五圓國道改良工事費二千七百九十一萬四千六百三十六圓合計四億八千九十八萬二千六百三十八圓にして起工以來本年度迄の竣功額を累算すれば三億三千五百四十五萬二千四百八十二圓に達す本報告は國直轄土木事業の狀態を詳かにする唯一の文獻である。

一昭和七年度時局匡救土木事業概要 山口縣

山口縣に於て多年要望せる道路、河川、砂防及港灣の改修は農村振興及産業振興土木事業として縣市町村を通じ工費二百六萬四千九百六圓餘就勞延人員百三萬八千四百三十五人の多きに達し前古未曾有の大事業であつて豫期以上の成果を收めたる事績を蒐録したもので斯種の事業施行に關する好資料である。

一自動車經營の理論と實際 日本交通協會

昭和十年四月二十三日乃至同二十五日三日間大阪鐵道俱樂部に於て日本交通協會、帝國自動車協會が主催した自動車經營講習會の講義を速記編輯せるもので自動車工業及運輸の加速度的進展を視、自動車工業法案の議會に提出せられんとする今日斯業界に取りては必須的參考文獻たると云ふも過賞であるまい。(定價金貳圓)